

# 平成28年度 リハビリテーション部 クリニカルインディケーター

## 目次

- ・当院リハビリテーション算定内容
- ・リハビリテーション患者内訳
- ・月別新患内訳
- ・算定単位数

# 当院リハビリテーション算定内容

- ・脳血管リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料

# 脳血管リハビリテーション料（Ⅰ） 施設基準

- ①専任の常勤医2名以上（1名は当該リハの3年以上の経験者又は研修会等の受講歴・講師歴がある者）
- ②専従の常勤理学療法士が5名以上
- ③専従の常勤作業療法士が3名以上
- ④専従の常勤言語聴覚士（兼任可）1名以上
- ⑤②～④の従事者総数10名以上
- ⑥専用の機能訓練室160㎡以上、言語聴覚療法は8㎡以上の個室  
————— などが要件

## 脳血管リハビリテーション料の対象患者

- ①脳梗塞、脳出血、くも膜下出血その他の急性発症した脳血管疾患又はその手術後の患者
- ②脳腫瘍、脳膿瘍、脊髄損傷、脊髄腫瘍その他の急性発症した中枢神経疾患又はその手術後の患者
- ③多発性神経炎、多発性硬化症、末梢神経障害その他の神経疾患の患者
- ④パーキンソン病、脊髄小脳変性症その他の慢性の神経筋疾患の患者
- ⑤失語症、失語及び失行症並びに高次脳機能障害の患者
- ⑥難聴や人工内耳植込手術等に伴う聴覚・言語機能の障害を有する患者
- ⑦顎・口腔の先天異常に伴う構音障害を有する患者

# 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）施設基準

- ①脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）を届け出ている。
- ②脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準における専任の常勤医師、専従の常勤理学療法士、専従の常勤作業療法士及び専従の言語聴覚士は、それぞれ廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）の専任者又は専従者を兼ねるものとする

# 廃用症候群リハビリテーション料の対象患者

- ①急性疾患等に伴う安静（治療の有無を問わない）による廃用症候群の患者（一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力、日常生活能力の低下を来しているもの）

# 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 施設基準

- ①専任の常勤医1名以上
  - ②専従の常勤理学療法士又は専従の常勤作業療法士が合わせて4名以上
  - ③専用の機能訓練室100㎡以上
- などが要件

## 運動器リハビリテーション料の対象患者

- ①上・下肢の複合損傷、脊椎損傷による四肢麻痺その他の急性発症した運動器疾患又はその手術後の患者
- ②関節の変性疾患、関節の炎症性疾患その他の慢性の運動器疾患により、一定程度以上の運動機能及び日常生活能力の低下を来している患者

# 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） 施設基準

- ①専任の常勤医1名以上
- ②専従の常勤理学療法士又は専従の常勤作業療法士が合わせて2名以上  
（1名は当該リハの経験を有する専従の常勤理学療法士）
- ③専用の機能訓練室100㎡以上

————— などが要件

## 呼吸器リハビリテーション料の対象患者

- ①肺炎、無気肺、その他の急性発症した呼吸器疾患の患者
- ②肺腫瘍、胸部外傷その他の呼吸器疾患又はその手術後の患者
- ③慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息その他の慢性の呼吸器疾患により、一定程度以上の重症の呼吸困難や日常生活能力の低下を来している患者
- ④食道癌、胃癌、肝臓癌、咽・喉頭癌等の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者

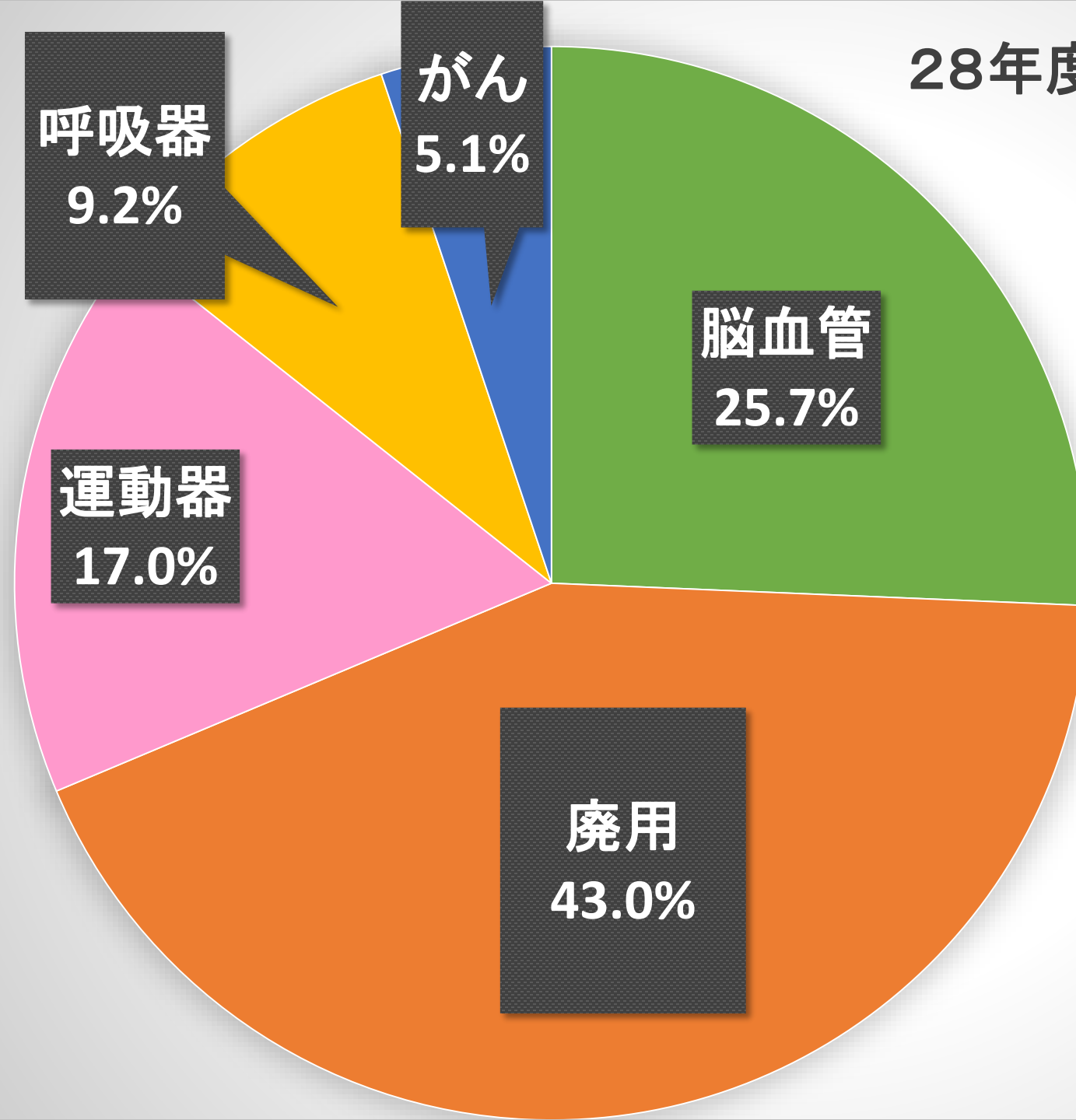
# がん患者リハビリテーション料 施設基準

- ①専任の常勤医1名以上
- ②専従の常勤理学療法士・常勤作業療法士又は常勤言語聴覚士を2名以上配置
- ③専用の機能訓練室100㎡以上
- ④脳血管リハビリテーション料・廃用症候群リハビリテーション料・運動器リハビリテーション料・呼吸器リハビリテーション料との併算定不可  
——— などが要件

## がん患者リハビリテーション料の対象患者

- ①食道がん、肺がん、縦隔腫瘍、胃がん、肝臓がん、胆嚢がん、大腸がん又は膵臓がんと診断された患者であって、これらのがんの治療のために入院している間に閉鎖循環式全身麻酔による手術が行われる予定のもの又は行われたもの
- ②舌がん、口腔がん、咽頭がん、喉頭がんその他頸部リンパ節郭清を必要とするがんと診断された患者であって、これらのがんの治療のために入院している間に放射線治療若しくは閉鎖循環式全身麻酔による手術が行われる予定のもの又は行われたもの
- ③乳がんとして診断された患者であって、乳がんの治療のために入院している間にリンパ節郭清を伴う乳腺悪性腫瘍手術が行われる予定のもの又は行われたもの
- ④骨軟部腫瘍又はがんの骨転移と診断された患者であって、これらのがんの治療のために入院している間にこれらの部位に対する手術、化学療法若しくは放射線治療が行われる予定のもの又は行われたもの
- ⑤原発性脳腫瘍又は転移性脳腫瘍と診断された患者であって、これらのがんの治療のために入院している間に手術若しくは放射線治療が行われる予定のもの又は行われたもの
- ⑥血液腫瘍と診断された患者であって、血液腫瘍の治療のために入院している間に化学療法若しくは造血幹細胞移植が行われる予定のもの又は行われたもの
- ⑦がんとして診断された患者であって、がんの治療のために入院している間に化学療法(骨髄抑制が見込まれるものに限る)が行われる予定のもの又は行われたもの
- ⑧緩和ケアを目的とした治療を行っている進行がん又は末期がんの患者であって、症状の増悪により入院している間に在宅復帰を目的としたリハビリテーションが必要なもの

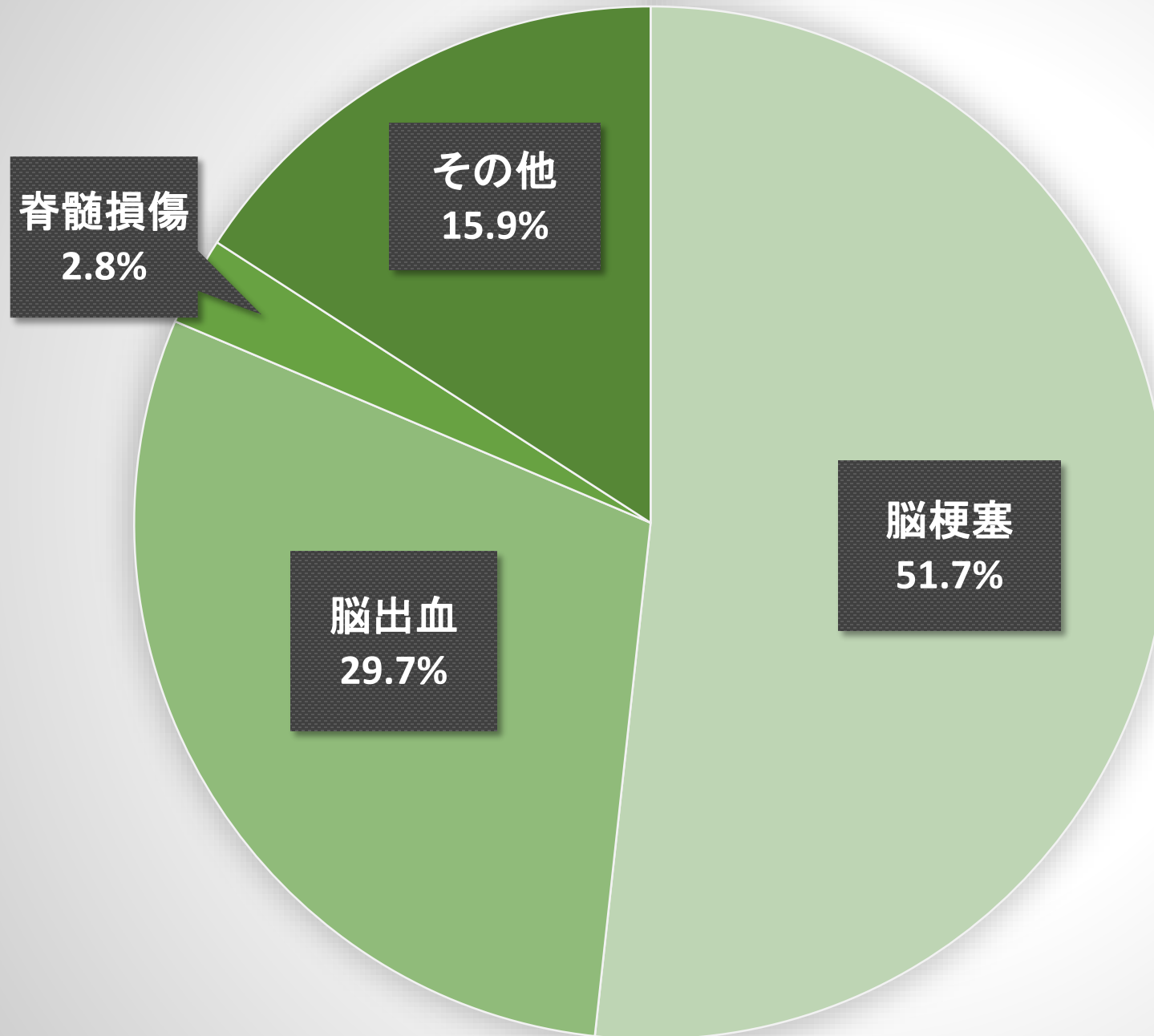
# 28年度リハビリテーション患者内訳



脳血管疾患等リハビリテーション料	145
廃用症候群リハビリテーション料	243
運動器リハビリテーション料	96
呼吸器リハビリテーション料	52
がん患者リハビリテーション料	29
合計(人)	565

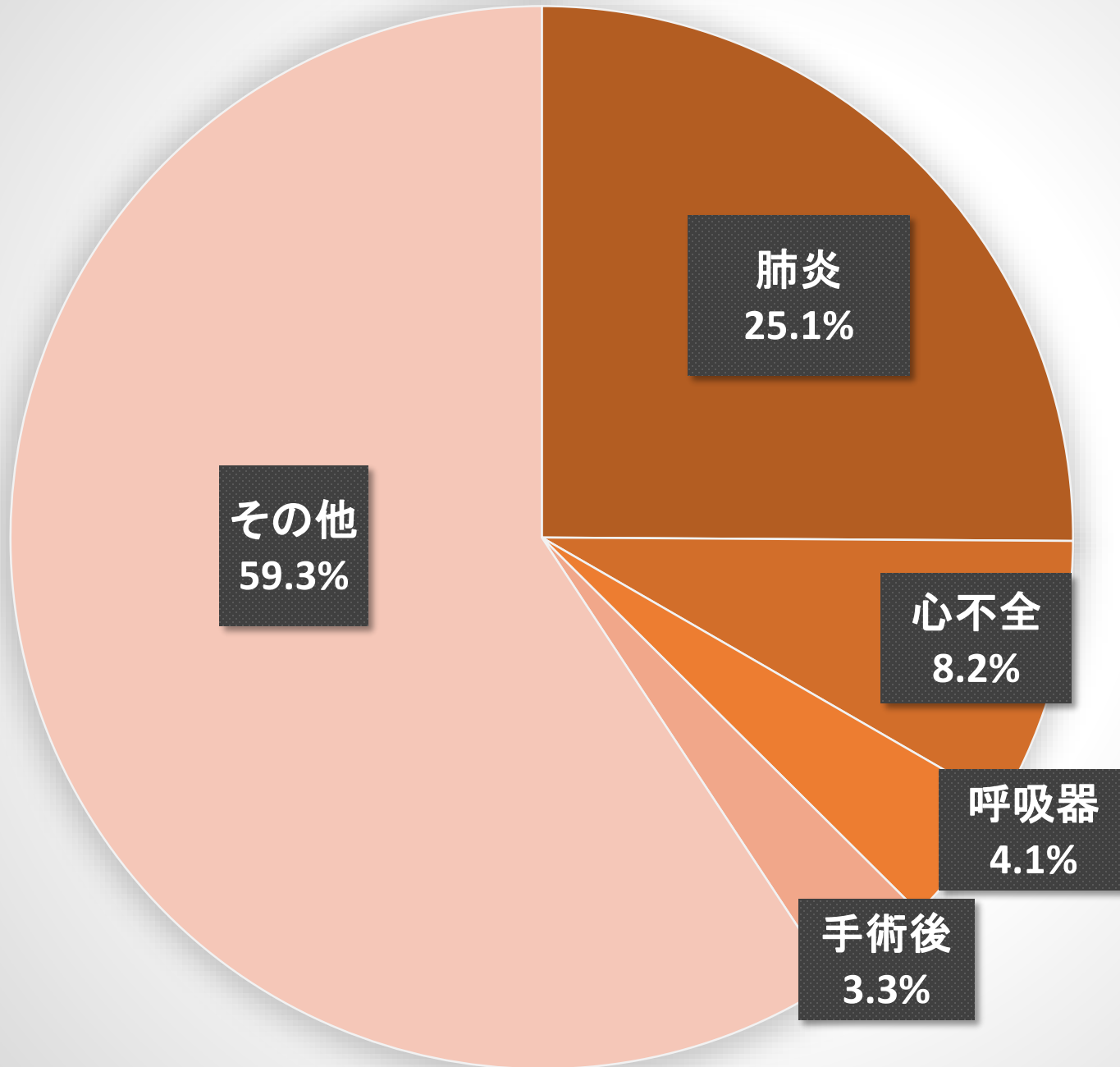


# 脳血管疾患等リハビリテーション料の患者内訳



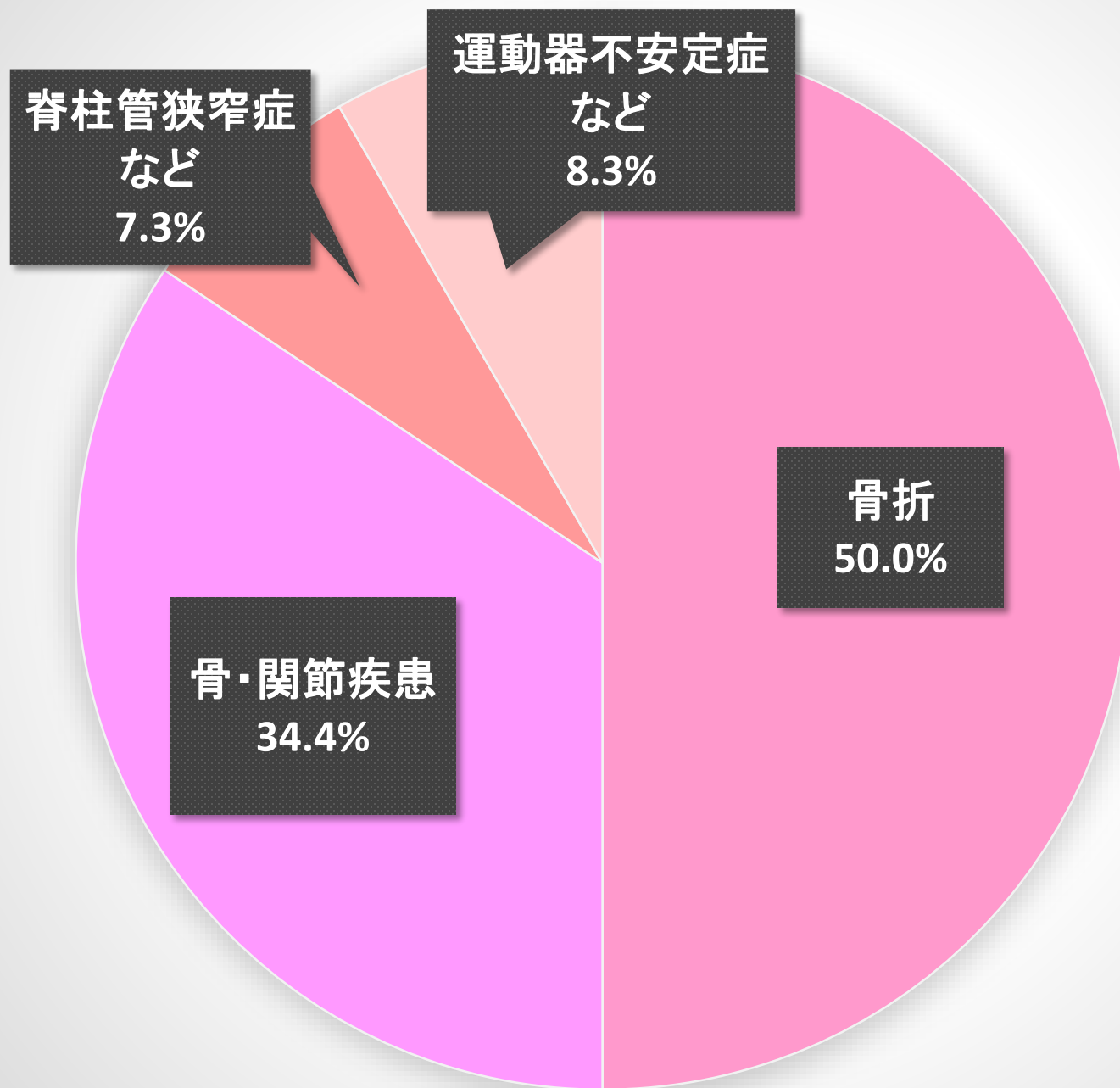
脳梗塞	75
脳出血	43
脊髄損傷	4
その他 (ALS・進行性核状性麻痺など)	23
合計(人)	145

# 廃用症候群リハビリテーション料の患者内訳



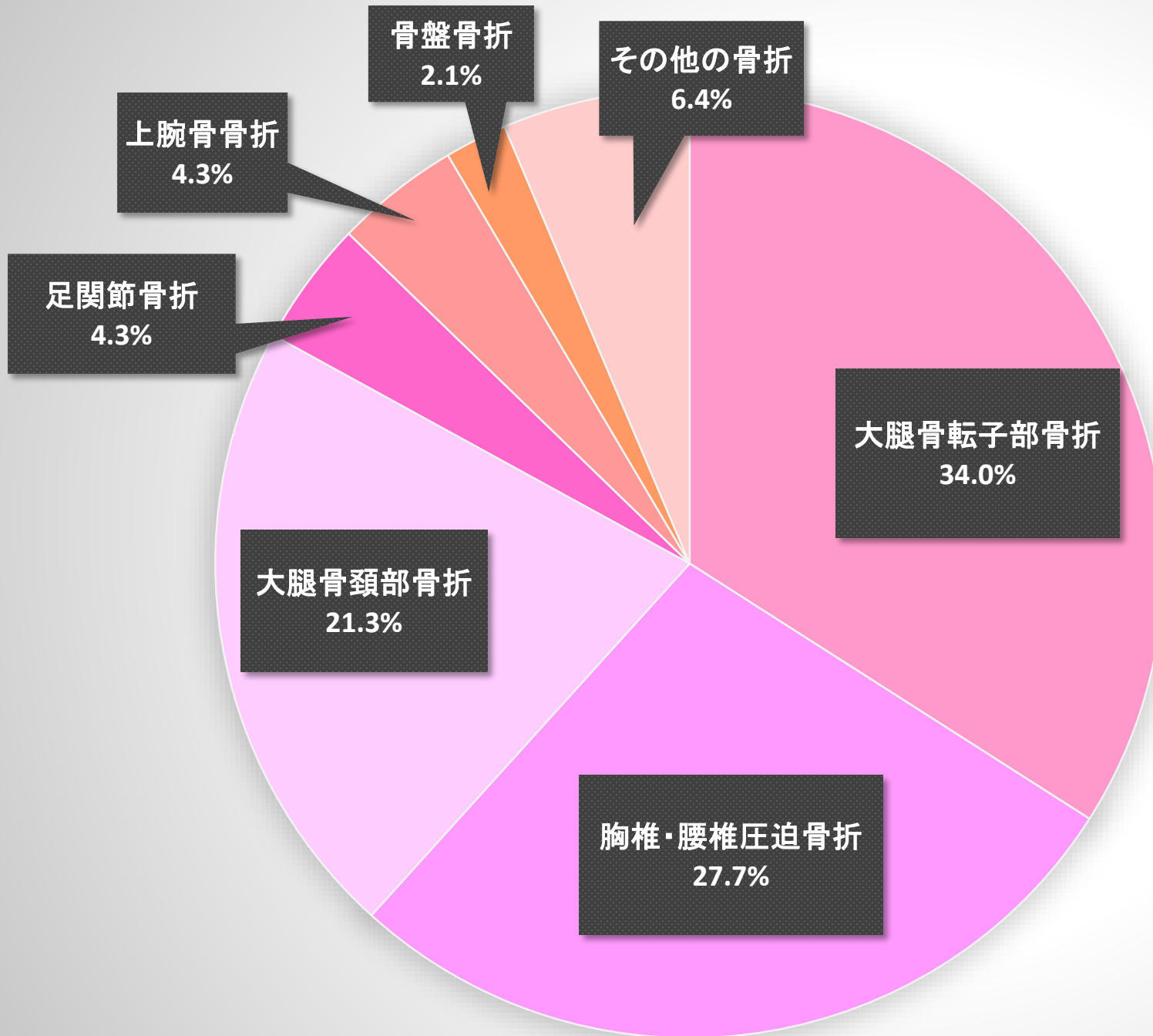
肺炎	61
心不全	20
呼吸器	10
手術後	8
その他	144
合計(人)	243

# 運動器リハビリテーション料の患者内訳



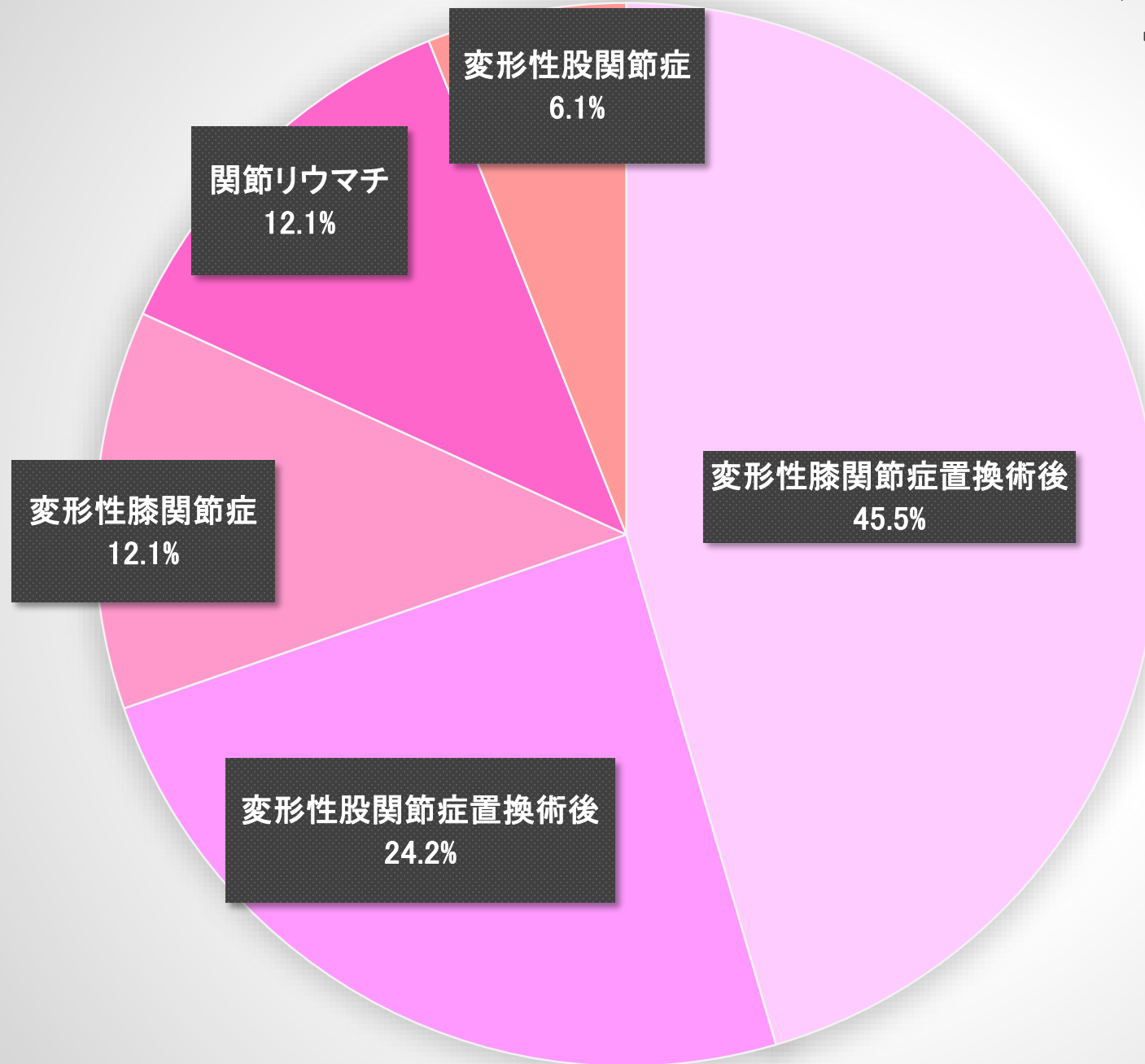
骨折	48
骨・関節疾患	33
脊柱管狭窄症など	7
運動器不安定症など	8
合計(人)	96

## 運動器リハビリテーション料 骨折の内訳



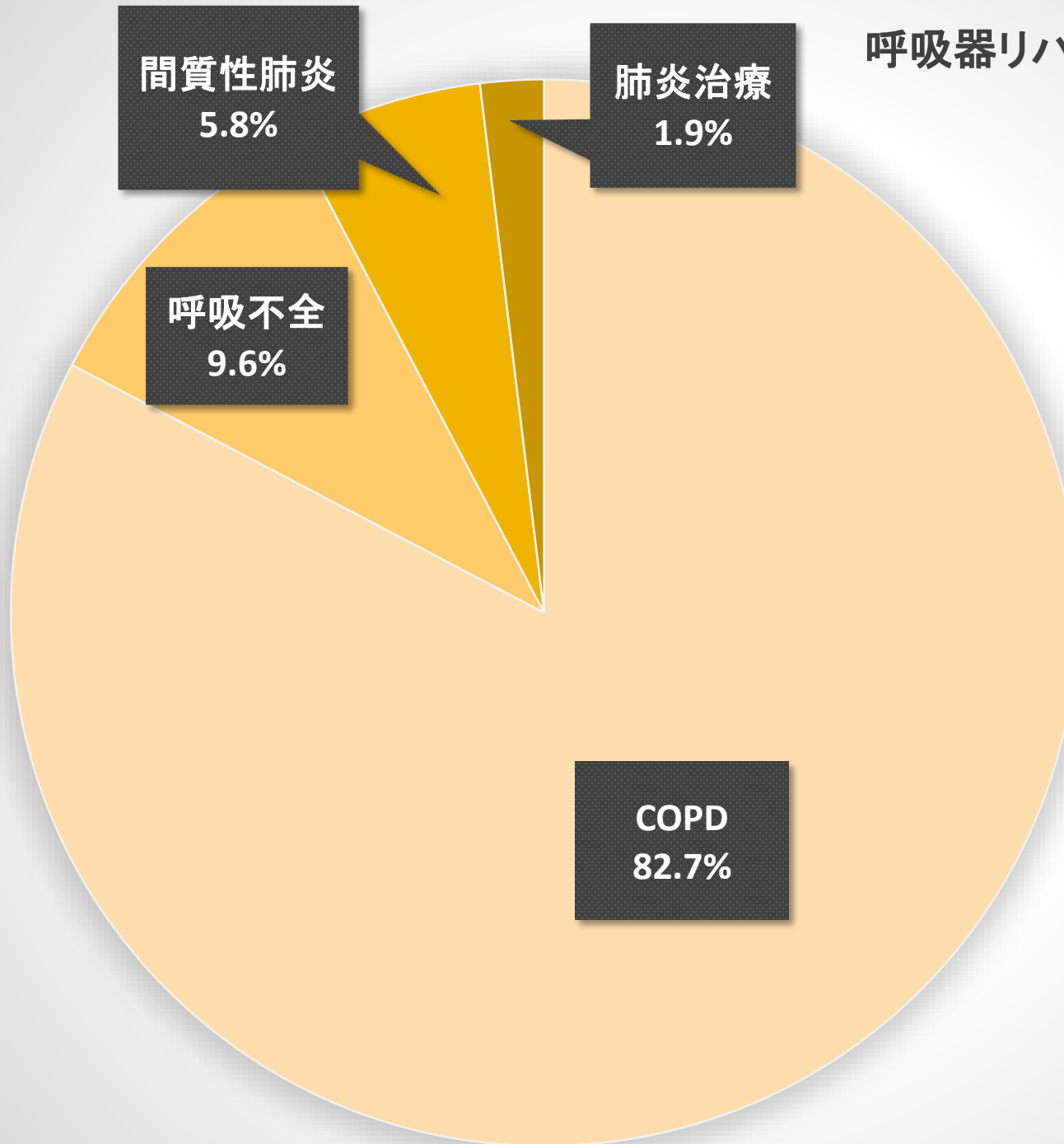
大腿骨転子部骨折	16
胸椎・腰椎圧迫骨折	13
大腿骨頸部骨折	11
足関節骨折	2
上腕骨骨折	2
骨盤骨折	1
その他の骨折	3
合計(人)	48

# 運動器リハビリテーション料 骨・関節疾患の内訳



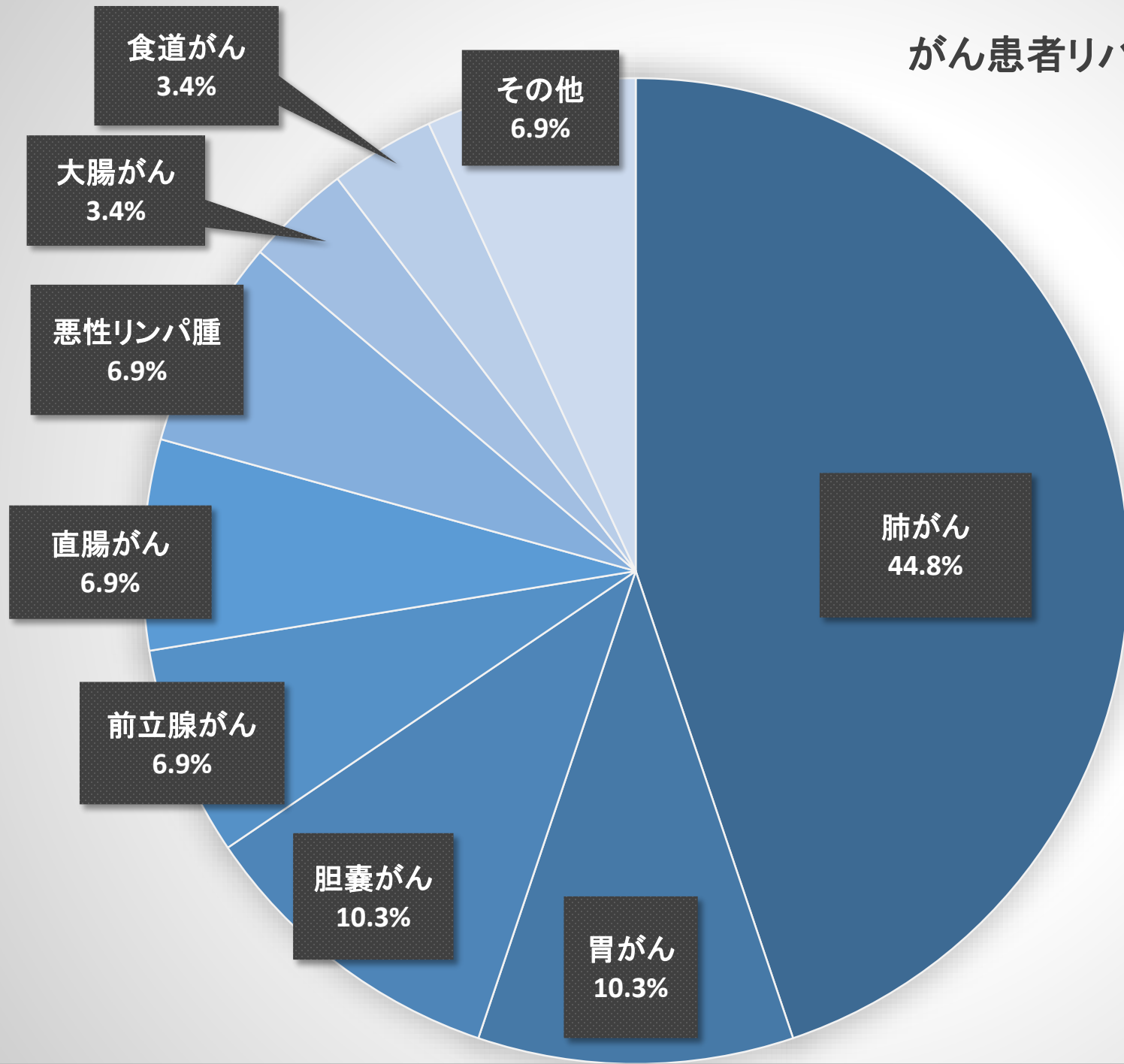
変形性膝関節症置換術後	15
変形性股関節症置換術後	8
変形性膝関節症	4
関節リウマチ	4
変形性股関節症	2
合計(人)	33

# 呼吸器リハビリテーション料の患者内訳



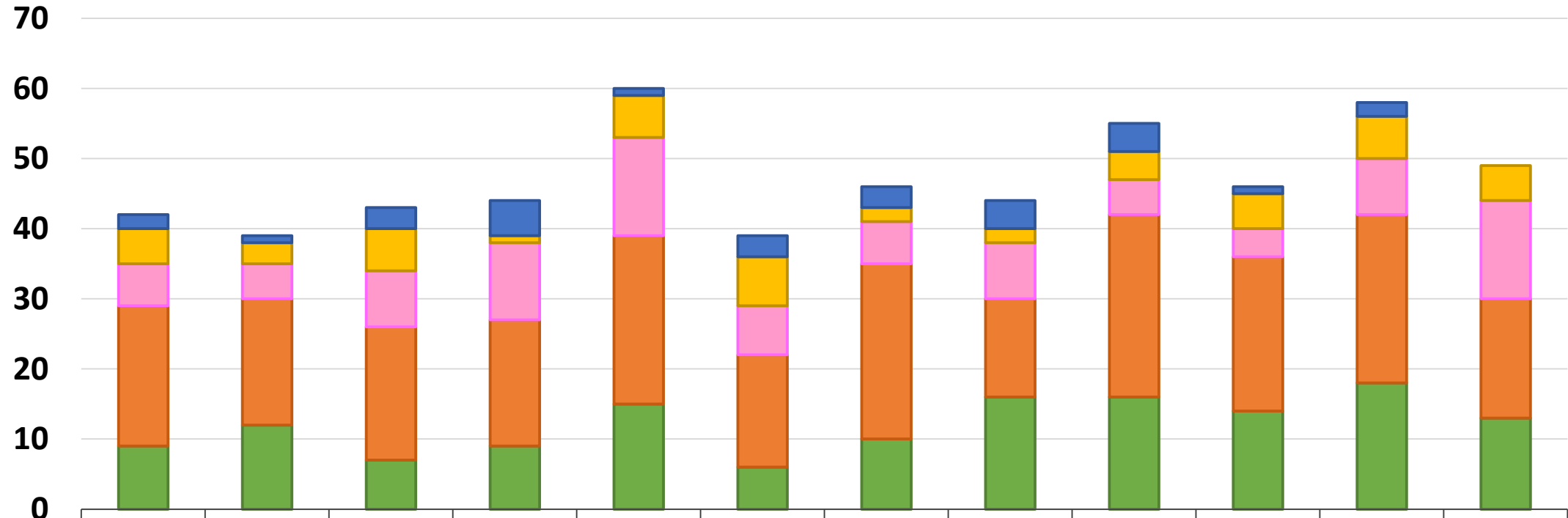
COPD	43
呼吸不全	5
間質性肺炎	3
肺炎治療	1
合計(人)	52

# がん患者リハビリテーション料の患者内訳



肺がん	13
胃がん	3
胆嚢がん	3
前立腺がん	2
直腸がん	2
悪性リンパ腫	2
大腸がん	1
食道がん	1
その他	2
合計(人)	29

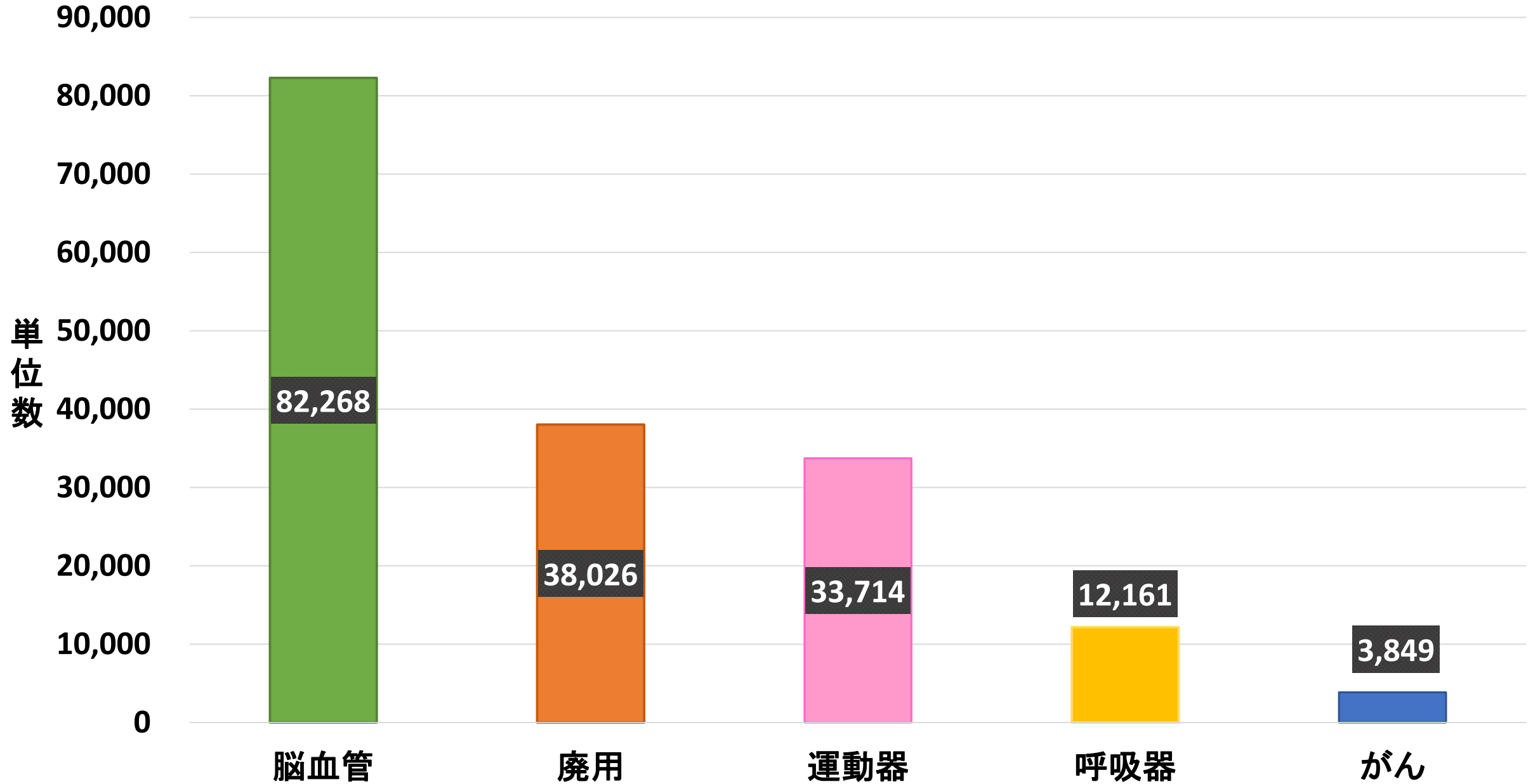
## 28年度 リハビリ 月別新患内訳



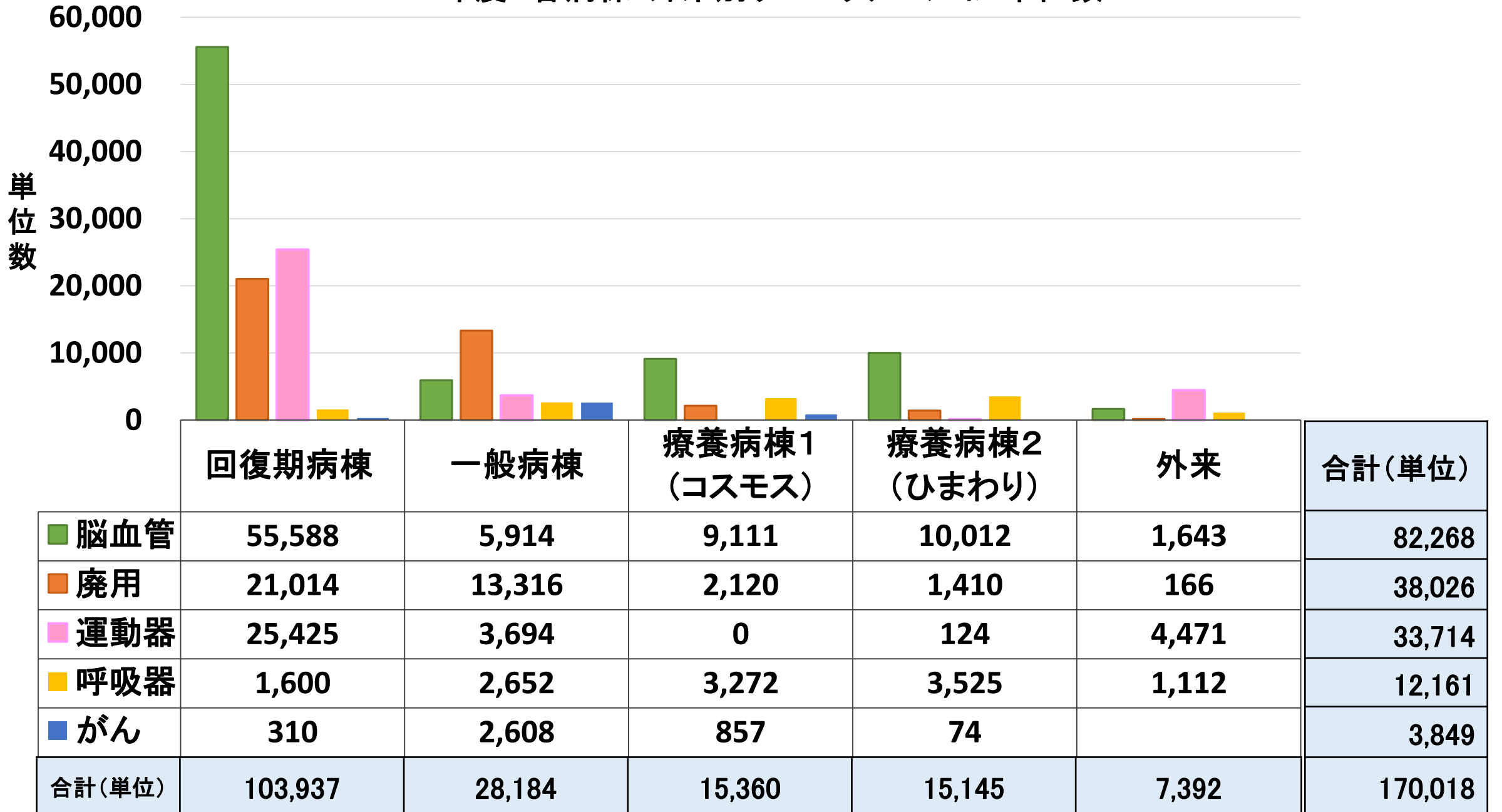
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
■がん	2	1	3	5	1	3	3	4	4	1	2	0	29
■呼吸器	5	3	6	1	6	7	2	2	4	5	6	5	52
■運動器	6	5	8	11	14	7	6	8	5	4	8	14	96
■廃用	20	18	19	18	24	16	25	14	26	22	24	17	243
■脳血管	9	12	7	9	15	6	10	16	16	14	18	13	145
合計(人)	42	39	43	44	60	39	46	44	55	46	58	49	565



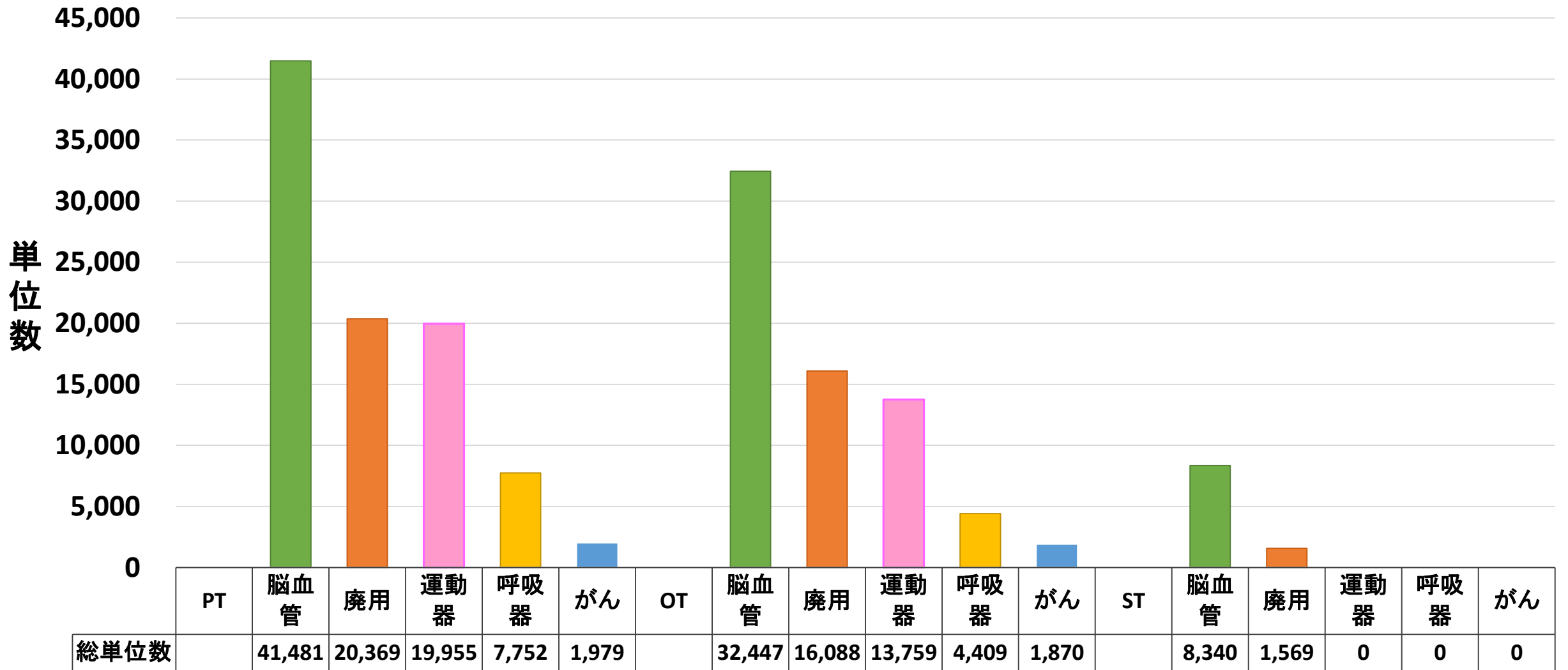
# 28年度 PT・OT・ST総単位数



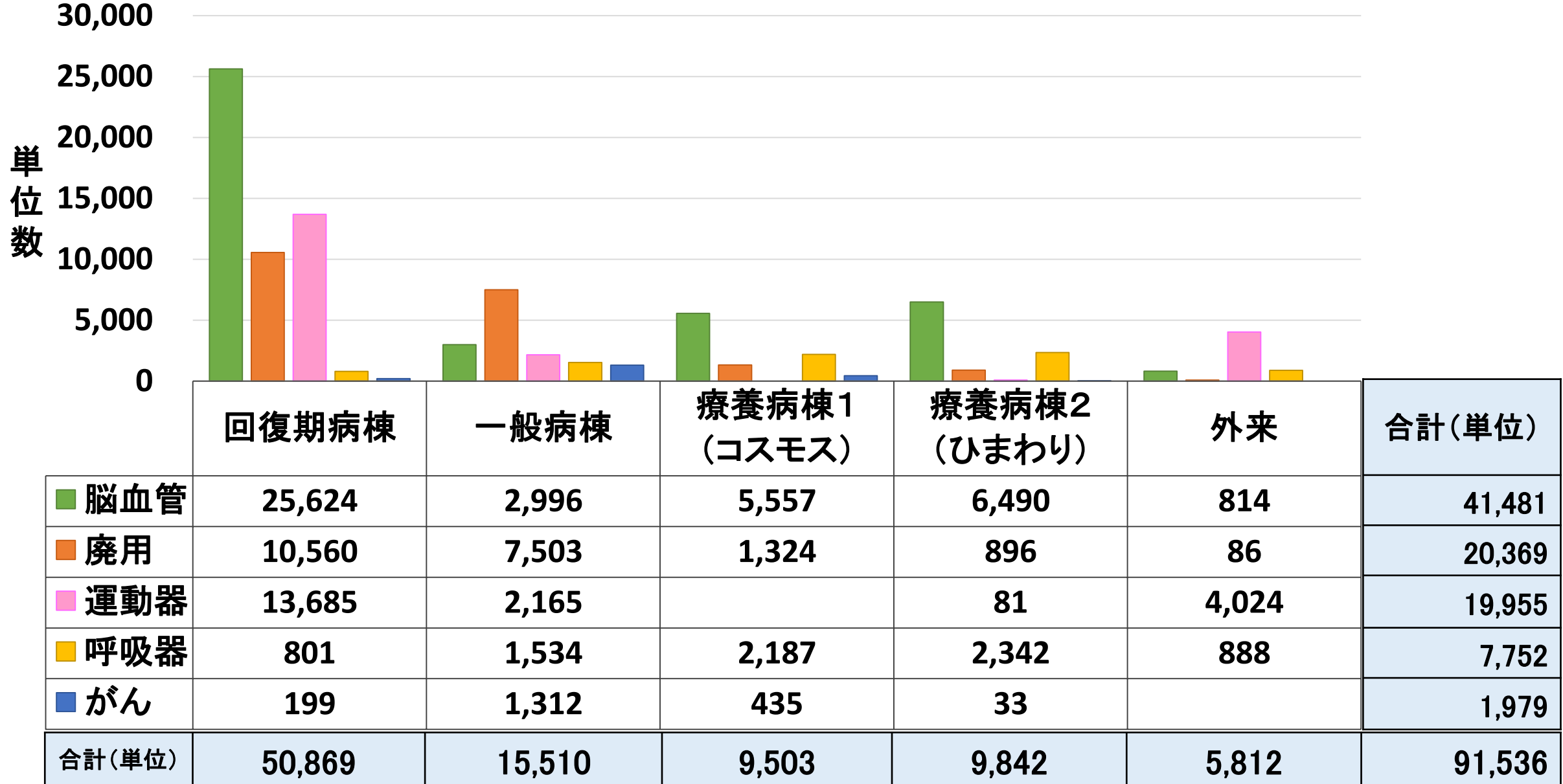
## 28年度 各病棟・外来別リハビリテーション単位数



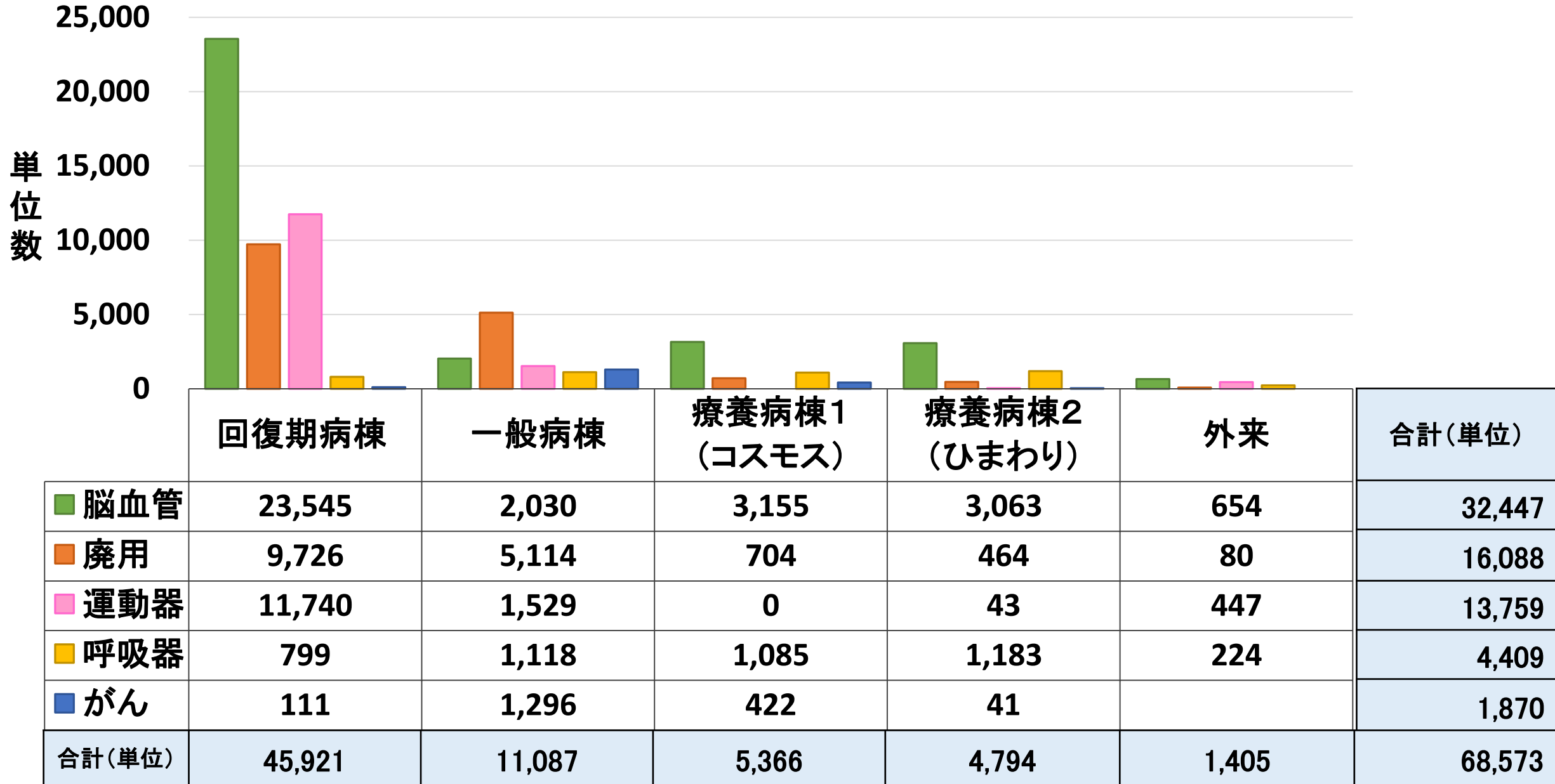
# 28年度 PT・OT・ST 疾患別総単位数



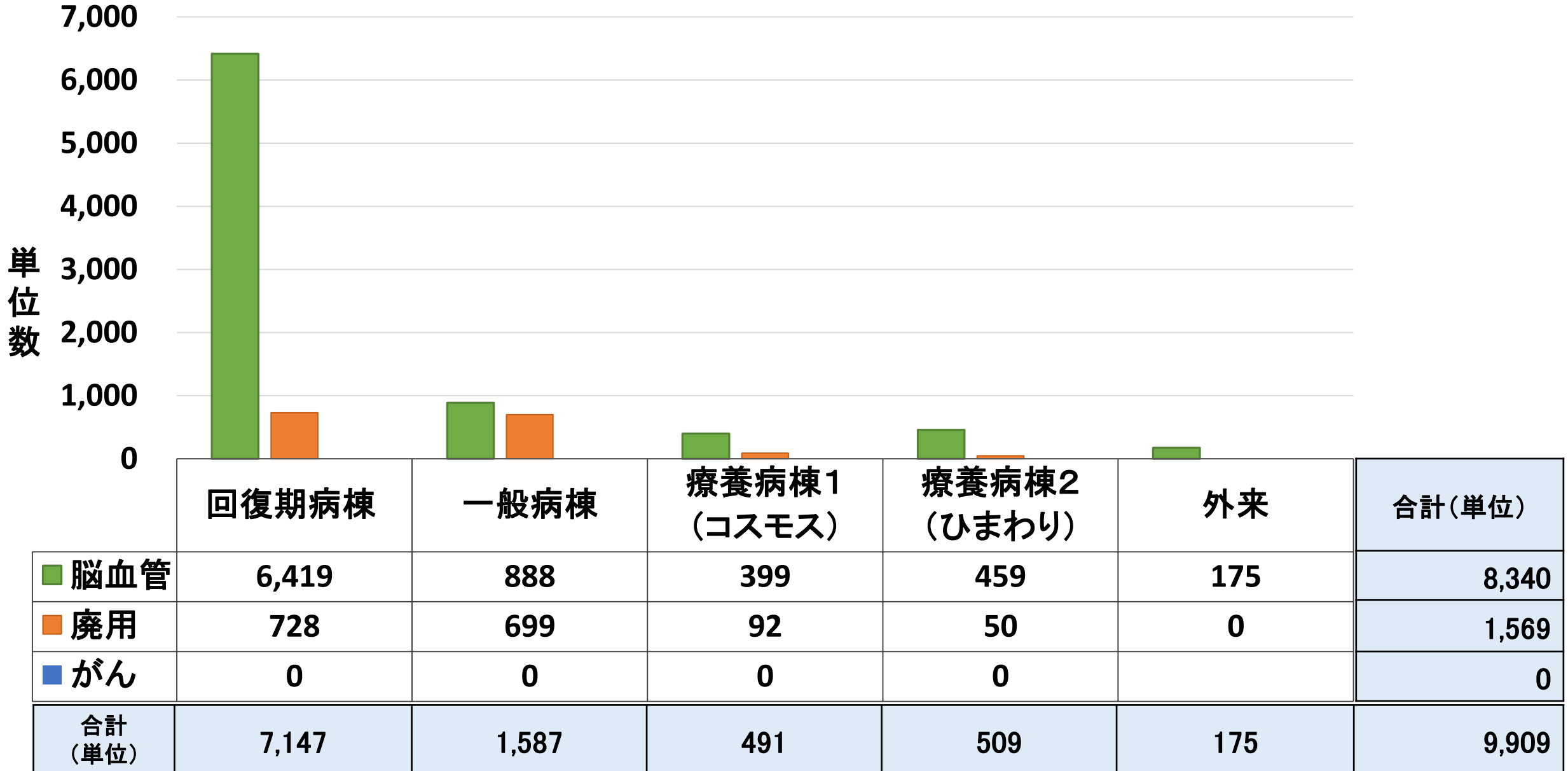
## 28年度 PT 各病棟・外来別 単位数



## 28年度 OT 各病棟・外来別 単位数



## 28年度 ST 各病棟・外来別 単位数



# 摂食機能療法 月別施行数

